



CEReS

Newsletter No. 137

Center for Environmental Remote
Sensing, Chiba University, Japan

千葉大学環境リモートセンシング研究
センター ニュースレター 2017 年 4 月
発行：環境リモートセンシング研究センター
(本号の編集担当：樋口 篤志)
住所：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33
Tel: 043-290-3832 Fax: 043-290-3857
URL: <http://www.cr.chiba-u.jp/>

■ 大学院改組、リモートセンシングコース設立 ■

～ グローバルな視点を持った学びの場として ～

千葉大学では 2017 年 4 月に理学系と工学系大学院が改組され大学院融合理工学府が誕生しました。これまで理学研究科と融合科学研究科に分かれて所属していた CEReS の教員は、地球環境科学専攻・リモートセンシングコースに集結し、協力して学生の教育にあたることができるようになりました。CEReS のミッションに研究だけでなく、教育が正式に加わったことの意義は大きく、環境リモートセンシングの成果を卒業生、修了生の輪を通じて世界に広げる核として CEReS が機能することが求められるようになったわけです。そのためのカリキュラム作りはまだまだ発展途上の段階にありますが、環境を理解し、技術を使いこなすことができる人材の育成を目指しています。CEReS は幅広い分野の教員で構成されていますが、環境とリモートセンシングを共通のキーワードとしながら、地球上で発生している様々な問題、課題に包括的な視点を持って対応できる研究・教育組織として歩んでいきたいと考えております。学生諸子には環境リモートセンシングの学びの場として、千葉大学進学をご検討ください。詳細は大学院融合理工学府ホームページ (<http://wwwwww.se.chiba-u.jp/>)、あるいは CEReS ホームページをご覧ください。

リモートセンシングコース長：近藤昭彦



■■■■■ Future Earth 勉強会 ■■■■■

～ センター長と学生との意見交換会 ～

4月19日（水）、センター長と学生との Future Earth に関する意見交換会を行いました。

去る3月2日（木）にけやき会館で開催した千葉大学 Future Earth キックオフ ワークショップにおいて学生の参加が少なく、Future Earth についての認知度を学生諸氏の間でも高める必要があると感じたためです。

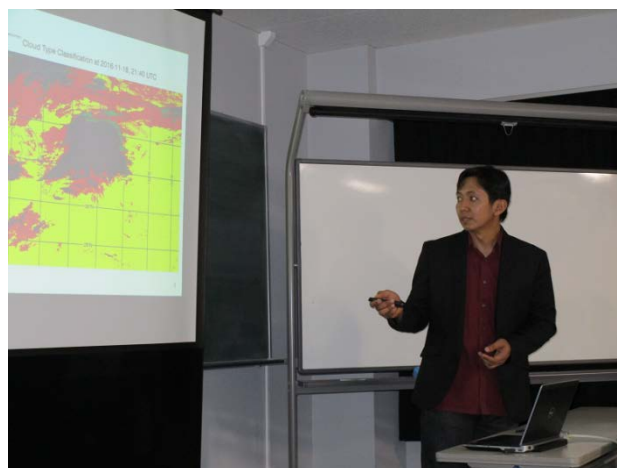
各研究室の代表学生9名（前期博士課程4名、後期博士課程5名）が、各自の研究と、その中に見出せる Future Earth 的要素についてを発表し、センター長、教員からコメントを返す、という形式で進めました。



Future Earth の根本にあるものは「超学際 (Transdisciplinary)」研究アプローチと呼ばれるもので、学問分野の間の垣根を低くするとともに、さらに学問分野（学界）の活動を社会に繋げることによって社会的な課題の解決を目指す、というものです。リモートセンシングという研究の性質から、自身の研究テーマと Future Earth の考え方を関係づけることが難しいということがあったことは事実です。それにも拘わらず、皆、何とかその間を繋げようという努力の跡が見られたことは今後に向けての収穫でした。

センター長からは、各自の研究を広げていくために、ある地域や領域に特化した研究をさらに広い範囲に広げていくための “customization” と “commonization” の視点を明確にして Future Earth に繋げていって欲しい、というコメントを送りました。さらに、この試みを続けてゆきたいと思っています。

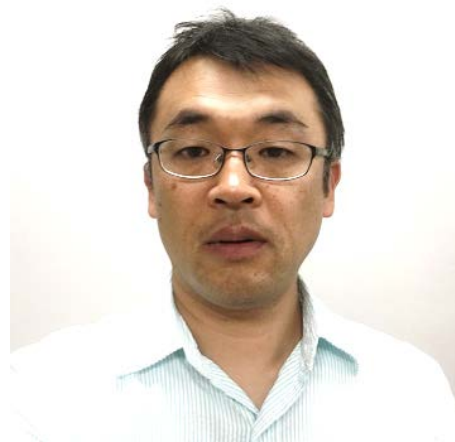
センター長 安岡 善文



■ ■ 新任職員の紹介 ■ ■

■ 市井和仁教授

4月に CEReS に教授として着任しました市井和仁と申します。どうぞよろしくお願いいたします。これまでの主な経歴としては、名古屋大学で学位取得、米国 NASA Ames 研究所で研究員として過ごし、その後、福島大学、海洋研究開発機構(JAMSTEC)を経て現在に至ります。専門は、生物地球科学(Biogeosciences)で、主には陸域における熱・水・物質循環を研究しています。リモートセンシングデータや数値モデル、現地観測などの様々な手法を駆使して、陸域植生の変動を地域スケールから全球スケールまでのさまざまな空間スケールでモニタリング・モデリングしています。特に、気候変動の影響などにより陸域植生の二酸化炭素吸収能力がどのように変動するか、陸域植生の分布がどこでどの程度変化するか、近い将来に何等かの大きな変動が起こりそうな地域はどこか、などを研究してきました。



CEReS においては、これまでの自身の研究をさらに発展させることはもちろんですが、リモートセンシングやその他の科学技術業界、研究業界で活躍できる人材の育成と輩出、研究成果を社会に還元することなども併せて目指していきたいと考えております。研究室の Web ページや個人ページには、最近の動向を含めて、活動や成果を随時アップデートしておりますので、是非、こちらもご覧頂ければと思います。

* 研究室ページ : <https://sites.google.com/view/ichiilab>

* 個人ページ: <https://sites.google.com/site/ichiikazuhito/>

■ 近藤雅征特任助教

本年4月より千葉大学環境リモートセンシング研究センター (CEReS) の特任助教として着任いたしました近藤雅征と申します。長らく海外で生活をしていましたが、2010年に帰国後、福島大学、海洋研究開発機構、そして千葉大学へと、渡り歩いてきました。私の元々の専攻は素粒子物理で、欧州原子核研究機構 (CERN) の陽子加速器 (LHC) の稼働実験にも関わっていましたが、色々な事情と過程を経て、現在は、大気と陸域生態系間の物質循環など気候変動や環境変動に関わる研究を行っています。手法はリモートセンシングのみならず、生態系モデル、大気インバースモデル、地上観測、これらを目的に応じ複合的に扱う統合解析を得意としていまして、さまざまな衛星観測データを利用している CEReS の皆さんと共同研究の機会があることを切に希望しております。昨今話題の地球温暖化現象と、それに伴う環境変動に関し、大きな研究成果を CEReS から発信できるよう尽力していく所存です。よろしくお願いいたします。



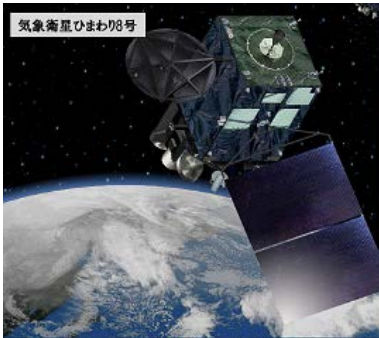
■■■ アカデミック・リンク・ウィーク企画 ■■■

～「ひまわり 8 号が魅せる フルカラーの世界」～

毎年 4 月の入学シーズンに合わせて附属図書館/アカデミック・リンク・センターでは新入生の皆さんを歓迎して、「アカデミック・リンクウィーク」と名づけた様々な企画を開催しています。その中で昨年に引き続き、CEReS で取り扱っているひまわり 8 号の高解像度データを紹介する講演を行いました。

ひまわり 8 号のデータは非常に大きく、付属図書館入口に設置している 4K モニタ 6 枚で構成している大画面ディスプレイでも表示しきれないほどの画像サイズを持っています。この春新たに入学した学生に対して、大画面ディスプレイで公開の画像説明を通して、千葉大学がこのような高性能の衛星を扱っていることや、データを使って新たな分野へ応用することができる可能性について周知する良い機会となりました。今後もひまわり 8 号が観測した四季折々の気象現象や環境を取り巻く事例を公式 YouTube や講演を通して紹介してゆきます。また当センターで準リアルタイムに精密幾何補正を行ったひまわり 8 号 Gridded data の公開も行っているため、研究用途に利用いただければと思います。

気象衛星ひまわり8号



アカデミック・リンク・ウィーク企画

ひまわり8号が魅せる
フルカラーの世界

カルマン渦 (2017年1月) 台風18号 (2016年10月)

日時:4月10日(月)12:10-12:40 昼休み開催
会場:附属図書館本館1階 プレゼンテーションスペース

豊嶋 紘一 先生
(環境リモートセンシング研究センター)

図書館入口に設置の4Kパネル6枚で構成された
高精細ディスプレイで 今の地球を見てみよう

Academic Link

(特任研究員 豊嶋紘一)

